

## 令和7年度第2回葉山町総合計画審議会連継部会議事録

日 時：令和8年3月9日（月）10：00～12：00

場 所：葉山町役場庁舎3階 3－2会議室

出席者：福安部会長、津吉委員、富樫委員、畑野特別委員、志伯特別委員、山之口特別委員

山本政策課長、吉田課長補佐、大屋主任

### 1 開 会

- ・定刻通り開会
- ・会議の成立について報告
- ・資料の確認（次第含め計4点）
- ・傍聴希望の方はなし

### 2 議 題

#### (1) 連継の推進について

《事務局より資料の説明》

#### ○部会長（福安徳晃）

まず、今日の会議で、どのような成果が出ると次の会議に繋がっていくかというのを整理したい。

#### ○事務局（大屋主任）

今後の連継を推進していくにあたっては、ある程度の制度化・スキーム化が必要になってくる。平成29年4月に策定した「協働のまちづくり指針～みんなでつくる葉山～」という指針があるが、この指針を改定していくのがいいのではないかと担当としては考えている。現行の指針は具体的な手法や制度のような記載は無く、その改定にあたっては具体的な手法を記載していきたい。そのアイディアになるようなものについて、ご意見をいただきたい。

#### ○部会長（福安徳晃）

前回の会議と比べると、粒度を絞ったアイディア出しができるといいということで理解した。

#### ○委員（津吉彰郎）

市民参加制度については、作った後に本当に機能しているところがあるのか、と

思うが、葉山の規模ぐらいであれば良いのかもしれない。ただ、こういった制度を作った際に議会がどう関与していくのが心配だ。

#### ○部会長（福安徳晃）

町政参画の仕組みづくりを今後していくにあたって、議会議員の方々との関わりが示せるような、そういった仕組みを作っていかなければいけないということかもしれない。

#### ○特別委員（志伯マキ）

事例として紹介された堀内互近助プラットフォームについては、対面をベースに進められてきており、属人的な部分もあるが、好事例であることに変わりないと思っている。ただ、担当者が様々な資料を持参して、津々浦々回することで、情報共有がされており、その中にはオンライン化できるところもあるのではないかと考えている。

例えば、「地域課題」、そして、「人、スキル、場所などのリソース」、「実際に行われた活動」といったところを、ログとして見える化する。それらを横断してタグ付けすることで、どのように動いて成果物になっていくのかが、可視化され、それがスキーム化できるのではないか。最終的にタグ付けを政策と紐づけることができれば、町政参加を見える化できるのではないか。ただし、福祉分野の公的サービスが担うような生活を支えるエッセンシャルなニーズについては自宅を訪問して実際に把握するなど、対面での対応が必要であることが多いため、周縁的な生活の質を高めるようなニーズがオンラインでの可視化に適していると思われる。

#### ○事務局（大屋主任）

今回のヒアリング内容と、今のご提案を実際に町が参考にして実装していくとすると、第1回部会のご意見であった「リーダーが集える場づくり」が良いと感じる。こういった場合は、町内会、社会福祉協議会、観光協会、商工会、まちづくり協会などに参加していただき、町から情報共有をし、町は関与しなくても他団体間でも情報共有をする。そういった場づくりができると良いと考えていて、そういった際には町ホームページ上でログのようなかたちで残して、情報公開をしていく。そういったかたちで、中間支援団体との連携を強化していければと思う。

#### ○部会長（福安徳晃）

自身の仕事でコミュニティづくりをしていて重要だと感じるのは、そのコミュニティでどういう議論がされたかというのが広くあまねく公開されているというのが重要だ。誰もが自由に書き込めるようなwikiのようなものがあると良い。

#### ○委員（津吉委員）

中学生、高校生、大学生ぐらいの方たちの意見が頻繁に出てくると良いと感じる。若い世代の町政参画への意識というのは高くなってきているというのを実感しており、そういった世代の意見に触れられる機会が増えるといいなと感じている。

#### ○特別委員（山之口委員）

高齢者層と子育て層は、住民としてのニーズは違うと思うが、お祭りなどはそれが交えるような機会ではある一方で、それが継続していく仕組みがない。

#### ○特別委員（志伯マキ）

地域活動への中高生の参加といえば、地域活動ボランティア証明書を発行すると、学生さんが喜ぶという事例がある。我々の活動に参加する高校生にも発行しているが、インセンティブになる。

#### ○事務局（大屋主任）

ジュニア市政モニターのインセンティブの例として、ぜひ参考にしたい。

#### ○委員（津吉委員）

南郷中学校の生徒が毎年、地域清掃に参加してくれており、終わるとお菓子を渡しているが、それに近いと思う。

#### ○部会長（福安徳晃）

こういった仕組みを登録制にすることで、持続性もできてくる。

#### ○特別委員（畑野真人）

イベントは垣根を超えるための良い仕組みであるが、それを継続的に日常に組み込んでいくのかというのが重要だ。そのためには、日常的に集まれる場が少ないというのが、葉山の問題点だと感じる。図書館の2階のホワイエは、様々な世代が集まっていてそういった場として機能しているが、他にもそういった場が増えていくといい。

#### ○委員（津吉委員）

長柄橋のバス停のそばに新しく川下橋公園という公園ができたが、人が集まる場としても機能していると感じる。

○特別委員（志伯マキ）

夜間に集まれる場がないことで、苦勞している団体の話を聞く。

○特別委員（畑野真人）

補助金の事例を掲載した意図は何か。

○事務局（大屋主任）

町内会活動において、スケールメリットの差が出てきているのが個人的に課題だと考えている。そこで、新たに地域活動の活性化に資するものの一例として、加入世帯数や資源ごみ量に応じたものではない補助の事例の掲載をした。

○特別委員（畑野真人）

自治体と、社会福祉協議会、それとまちづくり協会のような市民活動支援が、それぞれバラバラに支援してしまっており、連携する余地があると考えている。

○特別委員（山之口委員）

堀内互近助プラットフォームについて、福祉関係じゃないところまで広がったという成功要因は何かあるのか。

○事務局（大屋主任）

主な目的としては、高齢者や障害者の支援というのがあったが、その関係者だけでなく、子育て世帯や教育関係者など様々な関係者が横に繋がって形成していくことが重要だったと聞いている。また、コアメンバーに入った方々に若い世代の方々がいたというのも良かったとのことだ。

参考資料に掲載した地域交流会にも、高齢者や障害者だけでなく様々な世代が参加しており、顔つなぎの機会として機能している、

○特別委員（志伯マキ）

補足をする、高齢者福祉の支援が目的ではあって、公金の使途もその目的に沿うものであることから、活動の制限が出てきてしまう。そこで、参加者基準である65歳より下の世代は原則として担い手として参加をしている。ただ、その活動だけでは地域活動にまで広がっていかない。そのプログラムの中にカルチャースクールの要素を入れることで、担い手も参加して楽しいという、楽しさの要素がまずある。

加えて、地域交流会は第5週がある月にのみ開催をしており、様々な世代が参加できる交流会枠として機能している。介護事業の週と機会を分けることで、今の私たちになっており、地域活動へと広がっている。

#### ○特別委員（山之口委員）

この成功事例を真似したいという人はいるだろう。

まちづくり協会も色々な活動をリスト化されていて、情報自体は出ている。だが、実際に活動するには、その一つひとつの活動から町という間に距離があるのが実態ではないか。この距離の間には町内会があるが、町内会活動にあり方には再定義が必要で、この協議体はたまたま福祉の切り分けだったかもしれないが、町内会が当初は入ってなかったからこそできた成功事例だとも言える。

#### ○部会長（福安徳晃）

これまでの議論を整理すると、今回の堀内互近助プラットフォームのような成功事例があるのであれば、その成功要因の分析が必要だという点が一つ。

もう一つが、中高生、もしくは大学生も含めるのかもしれないが、そういった世代の繋がりを作って、この活力を如何に町が利用していくのか、という点。

さらにまちづくり協会のような団体をどう有機的に連携させ、金銭面も含めて町のコミュニティ発展のために活かしていくか、という点があった。

#### ○特別委員（山之口委員）

町がやるかどうかは別にして、スペースの問題もある。

#### ○委員（津吉委員）

スペースについては、空き家の活用も一つの事例だとは思う。

#### ○部会長（福安徳晃）

活動場所の確保は大事だ。空き家は、難しい問題があるのかもしれないが、公共の施設というのは学校も含めて様々ある。そういった活用を見直すことも重要だ。

#### ○特別委員（畑野真人）

そういった場だとすると、最近見直されているのが神社仏閣で、長柄の仙光院や一色の玉蔵院なども活用されている。

#### ○事務局（吉田課長補佐）

長柄小の防災フェスタも昨年度は長柄の長運寺で開催された。確かにそういう事例は増えている印象だ。

#### ○委員（富樫委員）

市民活動が活発に行われているのは非常に良いことだと思う反面、町行政として

どこまで関われるかという部分がある。第五次総合計画の連継という部分を、こういった団体の方々とどう進めていくのか、見解はあるか。

**○事務局（大屋主任）**

一つひとつの団体とすべて繋がっていくというのはできない。できないからこそ、中間支援組織との連携を強化していきたい。そのために、そういった方々の場づくりがあって、そこで繋がり、町が情報提供したものに対しての意見を、中間支援組織の傘下の団体に投げてください、意見を吸い上げて町へ提供していただく。そういった流れを作っていきたい。

**○委員（富樫委員）**

そうすると、中間支援組織がしっかり出来上がっていくような施策を我々は今度考えていかななくてはいけない。中間支援組織がきちんと中間支援組織として成り立っているような、そういう仕組みづくりが重要で、逗子市では既にそういう取組みが進んでいる。

葉山に落とし込むとすると、条例が必要になってくる可能性もあるが、行政として必要な会議体や情報提供といったことを考えていった範囲のものでいいと感じる。行政とリンクできる方向に向けてやればいいのか。

**○部会長（福安徳晃）**

今の議論の中で、実際に成果としてしていくために、町として条例が必要なのか、別の仕組みが必要なのか、そこを検討していくことで間違いないか。

**○事務局（大屋主任）**

そのとおり。

**○委員（富樫委員）**

総合計画なしにしては進められないことから、総合計画とのリンクを意識しながら進めていってほしい。

**○部会長（福安徳晃）**

リーダーが集える場づくりについて、何かアイディアやフィードバックはあるか。

**○特別委員（畑野真人）**

テーマ型であればリーダーが集える場づくりは比較的できると思う。ただ、そのテーマから横断していくことについては答えが出ていない。

○委員（津吉委員）

イベントの日程が被るというのは、団体同士としては課題があり、横のつながりは重要だ。

○部会長（福安徳晃）

リーダーが集まる一つの主旨としてスケジュール調整があるかもしれない。

○事務局（大屋主任）

後援したイベントについては、行政回覧ではなくイベントカレンダーみたいなものに掲示するというのも一つの手かもしれない。

○特別委員（山之口委員）

自主的な市民活動というものと、町の計画としての連継を進めていこうというものの間ということをきちんと定義することが必要だ。今回の話としては、世代やライフスタイルによって分断されてしまうことを、繋げていきたいというのが大きいと思う。

このプラットフォームは、3層構造になっていて、3層目に「町内会」「民生委員児童委員」「子ども会」などがいて、ここで機能になる。つまり、様々な人たち・団体を階層的な枠組みにしていくことが重要なのではないかと思っている。金銭の部分も、きちんと判断できる仕組みを作ること、その実行力を高めるためには、要綱でできるのか、それとも条例化が必要なのか、そういった部分が次の議論なのかと感ずる。

役割を明確に定義し、核にしていくことが、町内会の高齢化や役割、または金銭面をどうしていくのか、という話まで繋がっていくと、町としての政策のレベルにまで引き上げられるかもしれない。

(2) その他

- ・ 前回議事録案の確認。
- ・ 次回開催スケジュールを確認。

以 上